

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800030		
法人名	堀 建設 株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩・中西		
所在地	島根県益田市市原町イ434-1		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成25年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念どおり「健やかに・穏やかに・にこやかに 尊厳あるその人らしい暮らし」を支援できるようスタッフ全員で取り組んでいます。ご利用者、ご家族、地域の方と共に支え合い、地域の中の家族として地区の行事やボランティアの方との交流を大事にしています。ご家族には写真を添えた手紙を出し、ご利用者の様子を知って頂き共にご本人を支えていく支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々利用者笑顔で関わり利用者の言葉を大切に個性を生かした本人らしい生活が続けられるように支援している。地域との繋がりを大切にし、田植え前の水路に水が流れるように草刈りに参加したり、小学生が来訪し大豆が出来るまでの研究発表や、トランプ、かるたで交流し、「事業所を見せて下さい」と地域の人が気軽に立ち寄りたりと、開かれた事業所作りに取り組んでいる。今年度は、運営推進会議の家族参加の工夫として全員に声かけを行い、遠方の家族には面会時、昼食を共にして貰うなどの取り組みを行い参加が多くなった。会議前に議題を決めて開催したことで意見が多く出されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示、日々目を通し管理者と職員一人一人が把握、共有をし、毎日のケアにつなげている。	スタッフ研修で理念を話し合い、ケアに繋げるよう確認している。日々利用者に笑顔で関わり、個性を活かした本人らしい生活が送れるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の行事がある時には招待を受け参加させて頂いている。又、地元の小学生との交流やボランティアの方との交流を行っている。	地域の一員として田植え前の草刈り清掃に参加している。また、文化祭には利用者の作品を出展したり近所の人から野菜や釣ったイカ、花屋さんから年2回花の苗を貰うなど日常的な付き合いを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学生が授業の一環として利用者との交流をして学ぶ機会があったり、来て頂いたボランティアの方に事業所の説明をし理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事前に会議のテーマを決め、内容を絞ることで深い意見が頂けたり、どのご家族にも参加して頂くことで、色々な方のご意見をサービス向上に活かしている。	会議録を誰でも見る事が出来るように玄関に置いている。事前に議題を決めて会議を進める事で多数の意見に繋がり、出された意見は次回の会議で口頭で取り組み状況を報告している。	出された意見や取り組みを欠席者とも共有する工夫を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所通信で取り組みを伝え、運営推進会議に市担当者も出席して頂き、最新情報を伝えて頂いたり、アドバイスを頂き相互関係を築いている。	運営推進会議以外でも日頃より事業所の実情や取り組みを伝えている。介護保険のことや後見人の事等相談し、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方が自由に玄関より出入りできるように開放しており、又、1か月に1回のスタッフ研修にて、身体拘束をしないケアについて勉強会を行い職員の理解を深めている。	月一回のスタッフ研修で接遇、身体拘束、虐待の勉強会を行い、スピーチロック等話し合い理解を深めて日々利用者のケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1か月に1回のスタッフ研修にて、虐待について勉強する機会を持ち、日々のケアの中でもお互いに言葉かけなどに注意しながら業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加し理解を深めるとともに、職員間でも外部の研修内容を報告し合い理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずご本人、ご家族へ詳しく説明をし、不安や疑問点を尋ねご家族より同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話でご家族の意見、要望をお聞きしたり、利用者の状況をお話しさせて頂いたりしている。お聞きした内容はミーティングの機会を設け、職員間で共有し、運営に反映させている。	運営推進会議には全利用者家族に参加の声かけを行い意見を聞くように努めたり、家族会で家族同士が交流する場を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ研修で意見や提案内容を検討したり、「言いたいことカード」を設置し、職員の意見を聞く機会を設け日々のサービスに反映させている。	スタッフ会議で日々のケア方法や業務について話し合いを行っている。職員の意見で入浴支援の方法を声かけから最後まで一人の職員が関わるように改善し、利用者の安心と職員の負担軽減にも繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者を優遇し、やりがいのある職場づくりを目指すとともに給与水準の向上を図り職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内があれば、各職員へ提示し、研修を受ける機会を確保している。希望があれば勤務調整を行い、出来るだけ参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同圏域主催のスタッフ研修で勉強会などの機会をつくり、他の施設や各機関との交流に努め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の要望を交えながら、本人の意向を大切にできるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係が結べるように、ご家族の意思を確認しながらサービスの説明を行ったり、サービスの導入をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、ホームの雰囲気や環境を知って頂く為に、事前の来所や体験入所ができるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として、出来る事に参加して頂きながら利用者、スタッフがお互いを支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況変化や変わり事があった場合にはその都度連絡をさせて頂き、様子をお伝えしている。又、面会時には散歩へ出かける機会を設けて頂いたり、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力で馴染みの美容院へ出かけたり、面会も自由にでき、馴染みの方とゆっくり話しが出来る様に居室又はホールで楽しく過ごされている。	近所の人、民生委員、元の職場の人等の面会時には希望の場所でゆっくり過ごせるように配慮している。自宅や、墓参り、馴染みの美容院等に家族の協力で行ったり、買い物支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互い支え合い共同生活が出来ようスタッフは気配りを行っている。また、レクリエーションにおいても、個々により集団、個別で楽しめる内容を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでもご家族、入居先からの相談に応じている。又、ご本人の入居先に面会に訪れ生活情報を得て、交流を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向を大切にしながら、ケアにあたっている。自分の思いがなかなか伝えられない方には、表情や行動から意向の把握に努めている。	「ご本人の暮らしシート」やアセスメントシートで情報を知り会話、表情、仕草から把握に努めている。抹茶が飲みたいとの希望には、お茶の先生に来てもらい自分で抹茶を点て楽しんでもらうことができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を知り、生活環境の把握に努めている。居室には畳の部屋もあり、家庭の雰囲気づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新聞を読んだり、会話をしたり、個々のリズムで無理のないよう過ごして頂く配慮をしている。又、本人の得意とされている事を日常生活に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「ご本人の暮らしシート」を活かして個別ケアに取り組んでいる。又、月1回モニタリングを行い、他のスタッフと検討を行っている。ご家族への記録物の開示とケース記録へご家族より意向も記入してもらっている。	「ご本人の暮らしシート」で希望や好み、自分でできる事等を把握し、その人らしい生活が送れるように計画を立てている。家族対応時の受診情報は家族もケース記録に書き入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日々の様子や気付き、健康状態を介護記録に記入し、特に変化があることについてはケース記録を活用し、スタッフ間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望により行きつけの美容院へ出かけたり、外出や外泊がご家族と出来るように支援させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、地区の方との交流を行っている。又、地区のボランティアの方に来て頂き交流をさせて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を大切に、馴染みのかかりつけ医の受診を受けられるよう支援させて頂いている。必要時には主治医、ご家族と相談の上で他の医療機関の受診も行っている。	利用者、家族の希望のかかりつけ医の継続支援に努めている。体調変化時は、家族やかかりつけ医、協力医と情報の共有に努め対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診を受けている。必要時には、看護師へ報告をし、指示を仰ぐ。看護師と24時間連絡をとれるようにしており、緊急時にもすばやく対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の身体、精神状態を介護記録に常に記録し、情報交換に備えている。又、入院時にはご家族了承のもとで情報提供を行い、治療に協力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてご家族へ意向をお聞きする機会を設けている。又、必要時には個別に対応し、ご家族の意向を重視している。	契約時事業所の方針を伝えている。家族の希望があり家族の協力を得て支援した事例があるが、必要な支援内容を書面で確認し、職員も共通認識をしながら事業所としてできる最大限の対応を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を年1回どの職員にも受けられるように配慮している。又、急変時マニュアルや事故マニュアルを見やすい場所に提示し、対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網へ地域の方を含めて協力して頂いている。	避難訓練を消防署や地域の人、隣接している小規模多機能型事業所と合同で行っている。火元の事業所が消火を行い、もう一方の事業所が通報を行うよう職員の役割を認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を尊重した言葉かけが出来ているかどうか自分のケアを振り返る為、月1回接遇アンケートを取り、スタッフ一人ひとりが意識を高め合いながら取り組んでいる。	毎月職員対象に接遇アンケートを実施して自分の言葉遣いのチェックや確認を行い、利用者の気持を尊重しながら日々取り組んでいる。利用者のペースを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から日頃発せられた声をひろいあげ、何に興味を持ち、どのような希望をもっているかをさがし、実現出来る事を共に考え実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの表情を観察しながら、ご本人の希望に沿って日々過ごして頂ける様支援している。又、レクリエーションも行っているが、強制はせず声かけのみ行い、自分で選択出来る様に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の長い方には毎朝髪止めでまとめて気分を変えて頂く様配慮している。又、毎朝化粧をされる方もある。散髪などご本人の希望があればご家族に連絡をして行って頂く様支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、お米とぎ、盛り付け等、ご本人の能力に応じた支援を行っている。又、嗜好調査を行い、利用者の好きな献立にも配慮している。	盛り付けや下膳等、できる事を継続して行えるように支援している。季節の物を取り入れたり、好みも大切に聞き取りを行っている。副食は法人の栄養士が作っている。品数多く見た目もきれいな食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を、全量摂取して頂ける様咀嚼状態に応じて食事の形態を変えたりして工夫している。食事量や水分摂取量は日々の記録により把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の残存歯の状態に応じ嗽、歯磨き、義歯の洗浄を毎食後支援している。眠前には義歯を洗浄液に浸ける支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表により、排泄状況を把握し個々に応じて声かけ、誘導をトイレでの排泄を促している。衣類も自分で着脱しやすいようズボンのサイズやゴムの硬さにも留意している。	排泄記録表をもとに利用者に合わせた声かけでトイレ誘導を行ったり定時のおむつ交換を行っている。自立に向けズボンの工夫にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表により排便状況を把握し、食事、水分摂取量に留意し、毎日リハビリ体操、歩行等の運動も行っている。便秘がちの方には、下剤が処方され、看護師と相談しながら下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺いながら入浴して頂いている。便汚染の時や毎日の陰洗等も希望により行っている。個浴で好みの湯温、時間に浴槽、脱衣所を適温にし、リラックスして入浴して頂ける様支援している。	希望に合わせて入浴支援をしている。入浴を拒む人には、風呂場で体重測定を伝えるなど声かけを工夫している。利用者へ1対1で職員が関わるようにした事で利用者の安心に繋がった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個々の希望に応じている。居室は照明、室温等の環境を整え、入眠時の状況は個々の希望に沿っている。快眠して頂く為にもある程度生活リズムは決めてあるが、朝、日中でも横になる等休息できるよう希望に応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬文献綴りがあり、各自どのような薬が処方されているかスタッフ一人ひとりが知ることができている。又、服薬が変更になった場合にはその都度注意、報告が看護師よりあり、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望や興味のある事、趣味を生かした事をレクリエーションに取り入れ個別に対応させて頂いている。又、日常生活の場での好きな事、得意な事を個々の能力に応じ、役割をもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じて、日光浴、散歩、ドライブなどの支援を行っている。又、ご家族の面会時に一緒に散歩に出掛けたり、外出をして楽しんで頂いている。季節ごとに地域の行事にも参加させて頂いている。	天気の良い日には、玄関のプランターの水やりや玄関掃除を共に行ったりしている。ホールのテラスで椅子に座ったり体操をしたり外気浴に努めている。計画を立てイルミネーション廻り、初詣、ドライブ等の外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、ご家族が管理されている。ご本人の希望があれば、ご家族に相談をして対応して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があり、ご本人との会話を希望されれば直接お話して頂いている。又、手紙や贈り物があればご本人の希望に応じてお礼の電話をかけられるよう支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、食堂、脱衣所などに冷暖房を設置し、廊下と部屋の温度差に配慮している。又、和室スペースがあり、ご本人の希望で自由に横になれるように工夫されている。食堂には季節に合った飾り付けをして季節を感じて頂ける様に工夫している。	季節の花や書、写真を飾り利用者の好みの音楽が流れゆったりとした生活感のある環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや畳の間があり、気の合う方とテレビや新聞を見たり、ソファでお話をしながら一人ひとり自由な時間を過ぎて頂ける様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に好きな絵を飾ったり、可愛がっていた動物の写真、テレビ、ラジオ、本棚など使い慣れたものを持って来て頂き、居心地よく過ごせるように配慮している。	使い慣れた家具や寝具、ラジオ、化粧品等や好きな花鉢、利用者の作品、小学生からの作品を飾り利用者に合わせた配置の居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下の途中には椅子があり、お話をしたり、憩いの場として活用できている。居室前にはそれぞれ表札があり、家庭の雰囲気づくりに配慮している。		